

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201883		
法人名	社会福祉法人 パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 第1ユニット		
所在地	札幌市東区北11条東3丁目1番10号		
自己評価作成日	平成28年11月3日	評価結果市町村受理日	平成29年1月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新人職員も多くいるグループホームです。「自分の親もこのグループホームに入居させたいホーム」を目指しております。施設環境では、1階が食堂、2階、3階が居住空間になっております。イベント行事は1階の食堂で2階、3階のご入居者様と一緒に過ごしております。外出行事では、2階、3階のご入居様と合同で出かけております。先日の外食レクでは、入居者様はたくさん召し上がっておいりました。知識は足りないところも多々ありますが、入居者様への愛情は強くあります。ご入居者様やご家族様が、「このハートの家でよかった、助かってます。」と思っていただけるようなグループホームにしていきたいと思っております。そして、いいチームで、いいケアを実践できるためにも、職員が働きやすい環境を作っていきたいと思っております。

## ※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170201883-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170201883-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年12月14日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コンビニ・スーパー・ショッピングモール・公園・総合病院・飲食店・地下鉄駅等に近く、利便性が良い事業所である。鉄骨3階建ビル1階は事務室・備品庫・食堂・厨房・風呂等の共用部分で、2階・3階に各ユニットが配置されている。管理者及び職員は、毎日の挨拶をかかさず、必ず目線を合わせ利用者と話をしよう配慮し、相互の信頼関係と馴染みの関係が出来ており、家族の信頼も厚い。利用者の経験や知識が発揮できるように、遠出の外食や外食・行事の準備や参加を支援している。また個々の身体機能に合わせ体操・カラオケ・歩行運動等のレクリエーションを日課とし、事所内でも楽しく過ごせるよう工夫している。さらに職員と共に、スーパーやコンビニに買い物に行き、歩道の花壇の水やりや草むしり等、地域での生活を実感できる活動を日々取り入れている。事業所は、防災訓練に力を入れ、定められた年2回の避難訓練の他、地震や水害に対応できるような事業所独自の防災訓練を実施し、職員会議や運営推進会議で反省点を話し、繰り返し訓練しており、備蓄品も用意している。質の高いケアの実践と共に地域密着型として、利用者本位を実践している温かい事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階玄関や各階のフロア内に皆が見やすい場所に掲載し、理念の共有に努めている。又、日々入居者様と職員が、ホームの理念にあるように、共に喜び合える暮らしを創れるよう努めている。	法人の理念と基本方針を掲示し、事業所のパンフレットにも明記している。『地域に根ざし共に生きる・・・』事業所独自の理念は、全職員が共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内の行事(バーベキュー・敬老会など)にお誘いしています。また、花壇のお花の種植えをして下さったり交流を図っている。	町内会に加入し、事業所のバーベキューパーティー・敬老会・防災訓練には近隣の人々が参加し、利用者は地域の夏祭りに参加し交流している。オカリナ演奏やマッサージのボランティア訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の参加を通じて地域の人々に身近に感じて頂けるよう努め、2ヶ月に1回定期的に行っている運営推進会議の中でもホームで生活されている認知症高齢者の生活の様子を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方やご家族、地域包括の方にも出席して頂き、ホームでの取り組み、町内会、ご家族様、地域包括との意見交換をし、ケアとサービスの向上に努めています。	運営推進会議は家族・地域住民・地域包括支援センター職員等の参加のもと定期的開催され、事業所の状況・行事報告・避難訓練・災害時対応の課題について協議しサービスの向上に活かしている。	利用者家族に会議の案内はしているが、参加が少ないのが現状である。幅広い参加者から意見を得られるように、家族の参加を促す工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご入居者様の転倒事故等が起きた際には札幌市へ報告し再発防止に努め、また、確認事項がある際には連絡をとり連携を図るよう努めている。	介護保険課とはケアサービスの疑問点や不明な点は、随時相談している。地域包括支援センターとも連携し、サービスの向上に取り組んでいる。管理者は市や区の管理者連絡会議に出席し、他事業所職員と交流している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束・抑制廃止・虐待防止推進委員会があり、2ヶ月に1回委員による勉強会を行っている。また、検討会議を通し身体拘束と虐待防止に努めている。	身体拘束委員会が中心となり、定期的に研修会を開催している。身体拘束に関するマニュアルは完備し、拘束のない自由な生活を実践している。日中玄関は施錠していない。管理者と職員は鍵をかけることの弊害を理解し、さりげなく見守り支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会で学んだことを会議等で発表し、外部の研修に参加し防止に努めるようにする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はしていないが管理者や職員は制度内容を外部研修等で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの見学時や契約時に、契約書や入居のしおりで料金等の説明をしている。又、介護保険制度の改正時にはご家族様に書面で説明し、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階玄関に意見箱を設置している他にご家族様が面会に来られた際に要望がないか確認したり、運営推進会議の中でもお伺いしている。	家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見要望を聞き、面談内容は記録している。月1度発行している事業所の機関誌は、個々の日常の近況報告は職員が手書きし写真を盛り込んだ、温かみのある便りになっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、申し送りで、職員の意見や質問を聞いている。確認が必要な時には、上司に確認してから職員へ返答する。	管理者は全体会議やユニット会議で積極的に職員の意見等を聞く機会を設けており、個人面談も行なっている。法人として、人事考課制度の導入を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員処遇改善の実施や正規職員の登用、内外研修への参加など就業環境の整備と見直しをしている。また、労働時間や労働日数を調整する等、働きやすい環境をつくるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格取得ができるように法人内のキャリアアップ制度の活用や、外部研修にも参加できるよう配慮している。また、法人内の研修を開催し、職員の個々の能力の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市や東区の管理者会議、外部研修に参加し他の事業所との交流する機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご本人様とお会いして、現在の身体面や不安に感じている事や要望などを伺い、不安を軽減できるように、ご本人の話を傾聴し、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時に、ご本人様やご家族様から要望や悩み、不安を感じている事などを聴き、相談しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時に、ご本人様やご家族様と十分に相談を行った上で、必要に応じて福祉用具やその他のサービス(金銭管理)などの検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が何を何処まで出来るのか状況を確認しながら、職員は個々に応じてサービス内容を検討し、入居者様同士の関わりを作れるように努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの作成の際にはご家族様の意見を伺ったり、ホーム来訪時には現在の状態や日々の生活の様子を伝えており、時には相談させて頂くこともある。また、月1回本人の生活風景や近況報告のため、ハート新聞を作成しご家族様にお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の馴染みのある家具等を持ってきていただいている。ご家族様の了承を得てご本人様の馴染みのある方が来られた時には、面会をして頂き関係が途切れないように支援に努めている。	友人や知人の訪問もあり、継続的な交流ができるように支援している。家族と共に外出し、レストランでの食事や買い物などを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居間もない時には職員が間に入り孤立させないように支援している。ご入居者様の人間関係の把握、トラブルなく生活をして頂く為、環境作りを行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居で退去になっても、ご家族への手紙や電話連絡で、ご様子をお伺いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話で思いや暮らしについて、伺い個人記録に残しています。ご本人様にお伺いできない場合には、ご家族様にお伺いし情報収集しています。	センター方式のアセスメントを活用し、本人本位に検討するようにしている。家族から得た情報や、個々の思いや暮らし方の希望や意向を汲み取り、職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅や住み慣れた地域で、どのように生活をされていたのか、情報収集に努めている。入居後はその情報を参考にし、第2の住みかになるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の生活習慣(過ごし方)や日々の身体面や認知面の変化を見逃さないように個人記録や申し送りノートなどを活用し情報を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活していく上で何が重要か職員間で意見を出し合っている。必要に応じてご家族様、主治医からも相談、助言を頂きより良いサービスの提供が出来るようサービス内容を検討している。	利用者や家族の意見を計画に反映し、家族と共に利用者が望む生活が達成できるよう取り組んでいる。医師、看護師とは連絡を密にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に食事量や水分、排泄状況を記録している。ケアプラン内容の実践評価や、生活状況を記録し、毎日の様子を比べながら共有することができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みのある在宅生活のような家庭的な雰囲気やケアを大切に、個別ケアに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや行事への参加をし、地域との交流に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に応じてかかりつけ医、往診医、昼夜問わずに連絡が取れ、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者希望のかかりつけ医には、入居後もそのまま受診できるように、通院時の送迎をしている。週に1度の訪問看護師による健康管理、2週に1度の協力病院医師の訪問診療、医師と看護師とは24時間連絡がつく。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調不良時などは即座にかかりつけの病院(往診のクリニック)へ連絡し、指示をいただくなど、クリニックの看護師と連携を密に図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院や退院時にはご家族様を含めて現在の状況を把握して情報の共有を行い、退院の際には、看護添書等の情報に基づきかかりつけ病院との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時からご本人様とご家族様の意向を確認している。また、主治医、ご家族、ホーム側の職員と交えて今後起こりうるリスクや延命治療等、話し合い今後の方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方については、医療が必要な場合などについて早い段階から話し合い、事業所ができる事を説明し最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網、マニュアルがあり職員対応している。また、AEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施、町内会の方々、地域の消防団の方々のご協力もあり、又、ご入居者様、職員の参加もあり危機意識が高まっている。	消防署の協力のもと、地域住民・利用者と共に避難訓練を行っており、問題点は運営推進会議で検討している。自然災害にも対応できるように、事業所独自の訓練を行い万が一の災害時に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の立場になって、言葉掛けや関わりをしている。また、入居者様個々の人格を尊重するように意識している。	利用者の、プライドや羞恥心を大切にしたら対応をしている。職員は言動に配慮しながら一人ひとりの誇りを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に応じた関わり方や分かりやすい声掛け、自己決定、判断が出来る場を作るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にじっくりと過ごして頂けるようその方の生活習慣を大切にしている。希望に沿って買い物、外食等も実地している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の訪問美容や外出等の機会を作り、お洒落をして出かける支援、季節に合った服装が出来るようご家族様のご協力もありません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に野菜の皮むき、食器拭き等お手伝いして頂いています。又、希望に沿ったメニューの提供が出来るよう支援しています。	調理専門職員が作る食事は、身体状況・嗜好・栄養バランスに配慮し、食欲が出る様に見た目にも美しい。職員は、利用者と共に食卓を囲み個々の嚥下状況や体調の確認をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を個人記録に記載し水分量が一日を通じて確保できるよう支援している。食事が進まない場合にはエンシユアを飲んで頂き、栄養の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、定期的な歯科の往診にて口腔内のケアの指導、処置を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、個々に合わせた時間毎の誘導、パット交換の実施、トイレでの排泄を心掛けている。汚染時は清拭、洗浄を行い清潔の保持に努めている。	本人の身体的状況や心理的な負担も検討しながら、トイレ誘導の方針を話し合い、支援している。自尊心に配慮した声かけと、さりげない誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際に、乳製品や朝食時に牛乳を飲んでいただいている。また、トイレで腹部マッサージや身体を動かすなどして自然排便につなげるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況に合わせた対応、個々の状態、状況に応じシャワー浴、清拭、足浴と清潔の保持に努めている。	本人の希望する曜日や時間に入浴できるよう支援しており、必要に応じシャワー浴・清拭・足浴にも対応している。羞恥心や尊厳に配慮し、同性介助を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調、状況によりゆつくりと休めるよう支援している。日中の活動を把握し夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を把握し処方内容の変更時、申し送りノート、受診用記録に記入し情報の共有を図る。状態の変化、観察を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、花壇の水やり等、役割を見つけて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者様の希望に沿って外出レク、外食レクの計画を立てたり、花壇への水やり、受診時にご家族様と一緒に食事や散歩をして戻らせてきています。	一人ひとりの希望に応じて買い物・散歩・菜園作業等、利用者と相談しながら外出支援をしている。事業所の行事としても花見や紅葉狩り等、戸外での催しごとが計画的に行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方は職員と一緒に支払いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は自由に行っている。一人で電話をかける事が出来ない方は職員と一緒にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの居間が狭く環境整備に努め、写真を貼る、季節感のある提示物や飾り付けをしています。	各ユニットのリビングには、利用者の作品や行事写真が飾られ、家庭的な空間となっており、採光・臭気・温湿度・換気に注意を払い、清潔で居心地のよい共有空間となっている。1階のリビングは広く、2ユニット合同の行事や運動に役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階居間に椅子(ソファー)やテーブルを置き、一人で過したり、仲の良い入居者様同士で談話できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の持ち込みにより快適に過ごせるよう工夫した環境の提供をしている。	居室には押し入れ・天袋・ロッカーが設置されている。各家庭から馴染みの家具や日用品等を持参し、家族写真や思い出の品が飾られ、清掃も行き届き心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間、廊下、トイレに手すりを設置し安心、安全に生活ができるよう一人一人に合った配置、環境整備を行っている。		